

まち・ひと・しごとと創生総合戦略 推進事業KPI評価結果

平成29年9月4日

まち・ひと・しごとと創生総合戦略推進本部

基本目標 1 東日本大震災からの復興まちづくりを早急かつ着実に進める

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
1	新市街地整備事業完成度	100%	92.5%	◎	○	A	①移転予定者が時間切れのため、他へ移った方も多いと聞く。もう少しがんばってほしかった。	①事業を進めるにあたっては、従来から行われている方式に加えて様々な発注方式、工法の工法などを採用し、早期の宅地供給を図ってきたことを御理解願います。
2	防災集団移転促進事業完成度	100%	83.1%	○	○	B	①移転予定者が時間切れのため、他へ移った方も多いと聞く。もう少しがんばってほしかった。	①事業を進めるにあたっては、従来から行われている方式に加えて様々な発注方式、工法の工法などを採用し、早期の宅地供給を図ってきたことを御理解願います。
3	土地区画整理事業完成度 既成市街地 住居系	100%	67.6%	○	○	B	①現時点で地権者の同意が得られない所は、別の解決策に早期に移行する方がよいのでは？	①住居系の土地区画整理事業はあくまでも「現地再建」を目的とする事業である事から、地権者との合意形成を第一とし、事業にご協力頂けるよう努めております。
4	復興公営住宅完成度	100%	78.1%	○	○	B	①地域の偏りについてどのように考えているか。 ②民間賃貸住宅において復興住宅の建設によって、入居者が震災前よりも少なくなっていると聞いているが、民間賃貸住宅側との情報共有は行っているか。 ③整備計画戸数や地域が適正か。6年経過の現時点で精査していくようだが、中止や減の判断も正しくなされる事を希望。 ④新市街地整備の遅れに伴って希望者が多くなったと思われる。高齢者が亡くなる前に入れてほしい。	①復興公営住宅は、仮設住宅入居者の住宅再建を最優先としておりますが、供給計画を定め、将来的な市のバランスを考えながら整備しております。 ②借上型復興公営住宅の募集にあたり、民間賃貸住宅管理会社の意見を伺ったところ、民間賃貸住宅に空きが出てくるのが想定されますが、復興公営住宅を早期供給するため、今後も必要に応じて民間借上げを含めた整備を検討しております。 ③整備計画戸数を4,700戸としていますが、事前登録状況を踏まえて、必要戸数を整備します。市全体のまちづくりの観点から、地区別計画戸数を設定し、整備を進めています。 ④平成30年度中に、全ての事前登録世帯が入居できるよう整備を進めております。
5	市街地再開発事業完成度	100%	100%	◎	◎	A	①3つの再開発事業の整備が完了しているが、他の再開発整備の計画（優良建築物等整備事業）があると聞いているため、それらを含めたKPIとするべきではないか。 ②復興住宅の完成で人口が増えたと思うが、大型のスーパーなどが少なすぎる。対策を！	①優良建築物等整備事業は法的根拠に基づく事業ではないことから、事業の状況がさらに流動的となっているため、KPIに設定することは難しいと考えております。 ②（商工課回答）中心市街地における再開発ビル等の整備により、約300名の定住人口の増加が図られている。購買層の増加は見られるものの、現時点では民間によるスーパー設置の動きは見られない。買い物客利便性の向上は課題として認識しており、大型スーパーに限らず商業施設等の設置に係る民間事業者からの相談については、丁寧な指導・助言等を行ってまいります。
6	観光交流施設の来場者数	100万人	—	○	○	B	①先日オープンした「いしのまき元気いちば」の入場数実績を教えてください。 ②平成29年度に公共施設や立体駐車場が完成予定となっているが、立体駐車場利用料金や、かわまち交流施設の利用方法などの利用形態を教えてください。 ③かわまち交流センターは、聞いただけではどのように利用してよいか分からない。観光案内機能を集約するかどうか、目的を明確にしなければ、市民がどのように使うことが可能なか分からない。 ④道路改良工事やアクセス動線を検討する際の「周辺住民」の考えをもっと広範囲に聞くことで混乱を少なくできるのではないかとアクセスが混乱すると人の足が遠のく。 ⑤インフラ整備により通過者は100万になると思うが、その先が見えない。	①入場者数ではないが、1週間で1万2千人の購入実績があります。 ②立体駐車場については、平成29年秋の完成を予定し、利用料金は30分まで無料とし、その後150円ずつ加算してまいります。なお、街づくりまんぼうと連携し減免制度も設ける予定となっております。また、（仮称）かわまち交流センターについては、市民同士が交流したり、NPOが会議で使用したり、観光情報を展示し観光のハブ機能を持たせるようにした施設であり、交流スペースや少人数で利用できる会議室等を1時間200円程度で利用できるように考えております。 ③利活用方法については、有識者、地域住民と協議を進めているところであり、本市を訪れた者がここに来れば、市全体の観光案内が受けられる施設としてまいります。施設が完成するまでに市民の方々に施設の情報や内容をお知らせしてまいります。 ④当該地区の道路整備については、区画整理事業の計画に沿って行われております。区画整理事業の整備計画については、計画決定前に都市計画説明会を実施し、計画に対して市民の皆様のご意見を伺っております。また、説明会の開催については、新聞等を用いて広く開催を周知しており、施設近隣地域以外の皆様からのご意見を反映できるよう開催しております。 ⑤観光交流施設や道路等のインフラ整備完了後につきましては、堤防一体空間や（仮称）交流広場等のエリア全体の整備や、積極的なプロモーションといったソフト面を充実させることで、観光交流施設が中心市街地の核となり、市民や観光客等の皆様に親しまれる施設になるよう取り組んでまいります。
7	中心市街地定住人口	3812人	3,068人	○	○	B	意見なし	—

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
8	施設（萬画館及び観光交流施設）利用者数	1,241,200人	169,465人	○	○	B	<p>①「元気いちば」オープンに行き、賑わいを確認してきた。ここのプレオープン、オープンの日の来場者数を知りたい。なお、平日の日中も行って見たが閑散としていた。目標来場数に心配はないのか？</p> <p>②運営会社の努力や考え方など無視した形でこのような評価の対象にされていることに疑問を感じる。</p>	<p>①運営会社では、来場者数をカウントしていませんが、プレオープン日・オープン日のレジ通過者数（複数回のレジ通過者含む）カウントは、プレオープンの6月24日（土）約1,600人、25日（土）約1,800人、オープン日約3,400人と伺っております。また、目標来場者数ですが、平成30年には、石巻市かわまち交流センターが開設予定となっております、その後、堤防一体空間や（仮称）交流広場等のエリア全体が整備されることから、積極的なプロモーションや周辺観光拠点との連携を図り、目標達成を目指してまいります。</p> <p>②いしのまき元気いちばの運営会社の経営陣の方々とは、月1回の定例会議を始めとして、日常的に情報共有や運営の方針の確認等を行っており、今後も運営会社との連携を継続してまいります。今回の評価につきましては、平成28年度末時点で観光交流施設（いしのまき元気いちば、石巻市かわまち交流センター）がオープン前であり、萬画館の入場者数のみの数字だったため、C評価としております。本年6月にいしのまき元気いちばがオープンし、平成30年には、石巻市かわまち交流センターが開設予定となっております、その後、堤防一体空間や（仮称）交流広場等のエリア全体が整備されることから、ソフト面の充実と連携を強化し施設利用者の増を目指してまいります。</p>
9	中心市街地歩行者等通行者数	16,950人	15,412人	○	○	B	<p>①各施設がオープンしただけでは、いずれ下火になる。早い時期に活性化対策を考える必要がある。</p>	<p>①平成32年度にかわまち交流拠点の全体整備が完成する予定となっております。堤防一体空間や（仮称）交流広場等の各施設が順次オープンする際のイベントを開催するほか、近隣商店街と連携した、ソフト事業の充実を図ってまいります。</p>
10	半島部における拠点エリアの整備事業完成率	100%	10%	×	○	C	<p>①事業があまり進捗していないように感じるが、どういう理由があるのか。鮎川地区はとても進んでいるように感じられるが、一方で、雄勝、北上地区は遅れているように感じた。</p> <p>②雄勝地区中心部は整備が遅れている。雄勝中心部の防災集団移転暖地整備は進んでいるとのことであったが、本来は住む場所と一緒に周辺施設もできるべきであることから、防災集団移転側で評価が高く、拠点側で評価が低いという点は違和感がある。</p> <p>③半島の復興スピードが遅すぎる。中心部ばかりに工事が集中していると感じている。</p> <p>④早めてほしい！</p>	<p>①国、県、市の他事業が輻輳していることから、それらの調整に時間がかかっていることが原因となります。半島拠点事業部ができたことから、各拠点について一層の加速化を図ってまいります。</p> <p>②まちづくり協議会、ワーキング等で様々なご意見をいただきながら進めており、方針が決定したことから、完成にむけて進めてまいります。また、県事業ではありませんが、防潮堤事業も地盤づくり等の目に見えない形で事業は進んでいることも事実であり、今後ともしっかりと進めてまいりたいと考えております。</p> <p>③④半島沿岸部の復興につきましては、これまで住宅の再建を重点に進めてきており、住宅再建についてはほぼ完成域に達しておりますが、拠点エリア整備事業等の復興事業については遅れている状況となっております。今後拠点エリア整備事業地区の鮎川浜・雄勝中心部地区については、防潮堤及び県道等の県工事と拠点整備工事との事業間調整等を密に行うとともに、鮎川浜・雄勝中心部・北上にっこり地区に係る基盤工事と上物施設建設のマネジメントを行い拠点エリア整備事業の加速化を図り早期完成を目指してまいります。</p>
11	市民バス等によるネットワーク充足率	100%	100%	○	○	B	<p>①実績について、充足率という点では100%かもしれないが、北上地域においては土日の運行をしていないことから、違和感がある。また、防災集団移転団地等にも住民バスが回ってくる運行経路となっていないため、平成27年度の改善点に書いてある通勤・通学しやすいダイヤ編成にもなっていないように思える。</p> <p>②上品の郷にある停留所が大変日当たりがよいことから、日陰を探して待っている人もいる。その結果、バスが乗る人に気づかず素通りしているケースもあるようである。日陰を作ったりできないものか。</p>	<p>①住民バスについては、各総合支所単位で運行協議会を組織して、住民主体で運行を行っている。高校通学バスのあり方についても、運行協議会内で検討してまいります。また、移転団地への運行経路については、工事等でバスが移転団地に直接乗り入れしていない箇所もあることから、今後対処してまいりたいと考えております。</p> <p>②平成27年度に地域公共交通戦略を策定し、上品の郷はその中でも交通拠点となっているため、環境整備についても上品の郷側と協議しながら検討してまいります。</p>
12	津波防災拠点整備事業完成率	100%	18%	×	○	C	<p>①ささえあいセンターの用地交渉について難航しているようだが、どのような進捗状況なのか。また、交渉が難航し続ける場合、支えあいセンターの計画を見直すのか。</p> <p>②防災センターについて、平時は使用せず、有事の際のみに使用するという噂を聞いたが、いかがなのか。</p> <p>③ささえあいセンターは、他の土地や建物の転用ではだめなのか？</p>	<p>①地権者への丁寧な説明や粘り強い交渉を続けており、早期の契約ができるように進めてまいります。</p> <p>②防災センターの機能について、災害発生時には災害対策本部として機能する拠点となりますが、平常時には市民の防災意識啓発等を行う学習施設としても活用してまいります。</p> <p>③ささえあいセンターには、市立病院との医療連携、災害時の一時避難所といった機能が必要であり、防災センターや市役所を含めた一体的な防災拠点整備を行うことから、現計画位置での建設が必須となるものです。</p>
13	海岸保全施設整備事業完成率	40%	14.0%	○	○	B	意見なし	—
14	防災緑地整備事業完成率	100%	23.80%	×	○	C	意見なし	—

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
15	津波避難タワー整備、津波避難ビル指定件数	45件	36件	○	○	B	<p>①津波避難タワーについて、階段しかないことから、不自由される方がいるのではないかと。今後、整備する際は、高齢者、障がい者への配慮もお願いしたい。</p> <p>②螺旋のスロープだけで整備された避難タワーというものを聞いたことがあるのだが、整備する予定はあるのか。</p> <p>③津波避難ビルは、国基準未確認の件数も含まれているのか？</p> <p>④スロープについて、より早く上がれるのは階段ということでしたが、要援護者をタンカで運ぶにはどうなのか？と思いました。</p> <p>⑤避難タワー・ビル共に周知の講座だけでなく、地域で使い方のシミュレーション等を行う時期に来ているのではないかと。</p>	<p>①避難タワーは基本的に一線提と二線提の間の住居の無い地区に設置しております。しかし、大宮町の避難タワーについては住居地域への設置なので、高齢者や障がい者のために担架等を設置している。また、現在、大街道小学校南側にポンプ置き場を新築し、屋上を避難場所とする予定であり、周辺の住宅に高齢者や障がい者が多いため、スロープ付きの施設を整備しております。避難ビルの設置については、事業者の方から協力をいただき指定したものや、復興公営住宅が指定されているため、原則は階段での避難となります。</p> <p>②仙台市では、螺旋のスロープだけで整備された避難タワーもあるようだが、石巻市の場合、今次津波では津波到達までの時間が短いことから、階段整備を基本としております。</p> <p>③未確認の件数も含まれております。</p> <p>④高台避難を基本としているが、時間的余裕がない場合の施設としており、要援護者の避難には支援協力者が重要と考えております。</p> <p>⑤地域で行う防災訓練等でも施設利用をいただくなど、地域防災力の向上に努めてまいります。</p>
16	旧北上川下流域における長期係留船舶	0隻	70隻	○	○	B	意見なし	—
17	空き家等の活用件数 (H27年度～H31年度累計)	15件	2件	×	○	C	<p>①空き家対策について、高齢者一人暮らし世帯が入院等で空き家になったり、後継者が首都圏等に移住していることから、処分について困っている方がいることから、利活用だけでなく、処分についても対策していかないと抜本的な解決になっていかないことから、引き続き検討してもらいたい。</p> <p>②空き家等対策について、北上地区の改修については、住民は市の事業で改修した物件だと知らず、また、北上総合支所においても情報を把握していない。借家として市費を投じて整備されていると思うが、市が一個人の所有物の資産価値を上げるような形で整備していることにも疑問があり、事業が終了したら整備建築物がどういう取り扱いになるのかが分からない。そのような状態では、この事業が移住促進や交流人口の増加につながると思えない。</p> <p>③何年か前に空き家の調査に協力したが、その後の情報が無い。住民からの問い合わせや、バス待合所の利用等の要望もある。あれから進んでいないのか？</p> <p>④空き家3件の活用が、どれ程意味のあることなのか理解できない。今やるべき事は何かはあるはずだろう。もう一度、市全体で協議するべき。「石巻市はどこに向かっていくのか？」</p> <p>⑤活用のしかた</p> <p>⑥H30以降の流れに期待する。</p>	<p>①管理不全状態のものについても、しっかりと対応してまいりたいと考えております。</p> <p>②地域住民への周知不足については否めないところがあります。移住促進対策として、IT技術の研修所を整備した理由は、IT技術に関する労働環境を整備することにより、新たなIT企業の誘致による移住や、研修所で技術を習得した方による起業による交流人口の増加に繋がっていくものと考えております。事業をやっていない期間にはお試し居住として貸し出すようなことも検討しております。</p> <p>③平成27年度に一次産業の担い手育成に係る利活用可能な空家調査を実施し、その後、空家所有者の意向等を確認した上で、利活用(改修)を行ったところです。今後、除却も含めた空家の実態把握をする中で、これらの情報も含めた形で空家等対策を検討してまいります。</p> <p>④増え続ける空家を改修し移住者の受入や担い手育成のための人材を確保し、本市に定住していただくことが理想の形だと認識しております。一方で、移住者がその地域で生活していくためには、その地域の十分な理解や協力が不可欠となることから、単に空き家を改修するだけでなく、その地域にうまく溶け込めるような仕組みを検討してまいります。</p> <p>⑤現状では、移住者の受入や一次産業の担い手育成のための空家改修を想定しておりますが、庁内及び地域の方の意見を取り入れながら、より有効な活用方法を模索してまいります。</p> <p>⑥空家等対策は、除却や利活用など様々な視点から考えることが重要であり、庁内組織での情報共有、また、有識者の意見もいただきながら進めてまいります。</p>

基本目標2 人材を育成し安定した雇用を創出する

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
18	看護師、保健師、社会福祉の専門的職業の有効求人倍率 (常用フルタイム、H31年3月)	1.50以下	3.76	○	○	B	意見なし	—
19	地域医療福祉セミナー参加者数	50人/年	9人	×	○	C	①外部からの人材を石巻に誘致するために開催されているものと思われるが、厳しい状況にあるように見受けられる。現在事業を実施する中で何か改善している点があればお聞きしたい。 ②病院が開設すれば医師には本来の業務が発生するのは当たり前のこと。想定に甘さを感じる。	①本セミナーが始まるきっかけとなったのは、震災後に開成仮診療所において医師が確保できていたことから、何かできないかということで始まったものであります。しかし、市立病院に医師が運営スタッフとして入ること、セミナーの担い手の確保が難しくなっております。市立病院は東北医科薬科大学のサテライト施設としての役割もあるため、施設の研修体制が確立すれば、セミナーにもつなげていけるのではないかと考えております。また、医師会等と連携しての研修会実施も予定されているため、そちらにも展開していければよいと考えております。 ②(病院局回答)医師が予定どおり確保できておらず事業実施がままならないといった要因はありますが、本セミナーが実施できていない現状については、ご指摘のとおりであります。病院サイドとしては、病院業務に直接的に関わる医療職の実習・研修については、積極的に受け入れを行っており、今後も、回数、人数ともに増加していく見込みである。本セミナーに固執するのではなく、幅広く人材の確保・養成に繋がるよう取り組むこととしております。
20	石巻地区勤労者福祉サービスセンター会員数	3,500人	2,791人	○	×	C	①職員自身が努力すべき。	①石巻地区勤労者福祉サービスセンターは一般財団法人として独立しておりますが、本市も補助金支出のみならず、当該センターの会員確保に資する施策等を実施してまいります。
21	創業・第二創業件数 (H27年度～H31年度累計)	95件	67件	◎	○	A	意見なし	—
22	創業相談件数 (H27年度～H31年度累計)	200件	49件	◎	○	A	意見なし	—
23	肉用牛産出額	11億5千万円	10億円	◎	○	A	意見なし	—
24	6次産業化事業計画認定数 (H27年度～H31年度累計)	20件	3件	○	○	B	意見なし	—

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
25	農林水産業新規就労者数 (H27年度～H31年度累計)	20人	4人	○	○	B	<p>①泉町に漁業の担い手の住む場所があるとのことであるが、入居状況はどうなっているか。</p> <p>②今後、シェアハウスを整備していくことと思われるが、NO. 17の空き家と同様の問題になっているように思える。シェアハウスは入れ替わりが激しいのではないのか。今後は復興公営住宅も、空きが出てくると思われるため、そちらを活用した方がよいのではないのか。</p> <p>③漁業が取り上げられがちであるが、農業も石巻市の基幹産業として重要である。石巻市の気候は農産物には適したものになっていると思われることから、担い手を育成していくことが重要である。にも拘わらず、農業に関する事業費が減っている理由を教えてください。また、農業分のKPIの実績がゼロとなっているが、実績に後継者が戻った場合は含まれていないのか。</p> <p>④水産・農業それぞれに空き家が必要なのか疑問。働く場所に近いことが必要であるとの事だが何か工夫できないのか。</p>	<p>①担い手センターは、泉町、荻浜、北上町、現在建設中である渡波の4箇所を整備しておりますが、漁業種別ごとに分けて居住箇所を定めており、泉町は底引き網、荻浜は牡蠣養殖、北上町はわかめ養殖等で分けて入居していただいております。現在の状況は、泉町に1名、荻浜に2名、北上町に1名居住しております。渡波に関しては改修後に募集を行ってまいります。</p> <p>②現時点では4か所を整備しており、研修もその場所で行っております。漁業者と連携していることから、その地区で受け入れしてもらえなければ漁業権取得もできないため、地区で受け入れられるように地域の漁協やフィッシャーマンジャパンと連携してまいります。</p> <p>③事業費については、助成事業の実績となっており、要件が「1回しか助成を受けられない」となっていることが要因の1つと考えられます。また、実績については、都市部から移住して農業をしたいという者を受け入れた場合に、人数としてカウントする形となっております。</p> <p>④-1(水産課回答) 漁業就業希望者の受け入れに当たって、養殖漁業の研修の場となる半島部では、低平地集落の被災により、住まいの確保が難しく、現存する空き家を活用し、漁業就業者が短中期的に生活できるシェアハウス機能を持った「水産業担い手センター」を整備することとしております。働く場所の近くに必要理由としては、漁業就業希望者への研修に当たり、現役の漁業者の支援(指導者)は欠かせないものであり、その漁業者が住む浜の近くに研修場所を整備することが求められております。また、漁業権の取得に当たっては、漁業就労希望者が地域コミュニティーに溶け込み、地域の担い手としても認知されることが、もっとも効果的であると考えられるためです。</p> <p>④-2(農林課回答) 働く場所(研修場所)は農業法人の施設や農地等が考えられ、その多くは農村部に位置しているため、漁業担い手センターが位置する漁村部(半島部)からは遠く離れております。農機具の置き場所や農産物への綿密な手入れを考慮すると、働く場所に近いことが重要であると考えているため、漁業と農業それぞれで担い手センターを整備する必要があります。また、同業種の話や悩み等、新規就業者同士での話し合いが効果的であり大事になるため、農業担い手センターとして整備することは大いに意義があるものと思料されます。</p>
26	輸出増加数量 (平成26年比)	50トン増	10.9t	○	○	B	意見なし	—
27	観光客入込数	3,000,000人/年	2,409,384人/年	○	○	B	<p>①ポケモンでの大混雑・大混乱もしかり、津波警報での対応もしかり、観光客を呼ぶのは良いが、その前に安全な街づくりを願う。よって、リポーンアートフェスティバルも内陸側でやるべきと考えるが、なぜ沿岸部なのか？</p> <p>②来石の目的別は？</p>	<p>①リポーンアートフェスティバルの主催者である民間団体においては、牡鹿半島へ多くの人が訪れることにより、地域の人々やアーティスト、スタッフと一緒にしてお祭りをつくりだし、地域が前に向かって進んでいくことをコンセプトにしているため、沿岸部開催となっているので御了承願います。</p> <p>②観光客入込数は、市内施設や各種イベント等の来場者数を積み上げ積算していることから、各種イベント、各施設毎の目的別にカウントされております。</p>
28	石ノ森萬画館入場者数	241,200人/年	169,465人/年	○	○	B	<p>①萬画館の満足度など知れるといいと思います。</p> <p>②人のふんどしで相撲をとっているような感じがする。行政の立ち位置、協力の形を見せてほしい。</p>	<p>①平成27年に石ノ森萬画館が実施した直近のアンケート結果における満足度調査では、企画展(18.8%)より常設展の評価が高いことから(38.5%)、より充実した企画展を開催し、満足度の向上を図ってまいります。※リピーターは全体の27.3%程度</p> <p>②石ノ森萬画館は市の施設であり、その管理運営にあたり市の意見も含めて指定管理者と連携しております。今後も萬画館の運営に関して指導・助言を行うなど連携して事業を実施していくこととしておりますので御理解願います。</p>
29	観光交流施設の来場者数	1,000,000人/年	—	○	○	B	<p>①今後の改善点の中で観光交流施設周辺の道路改良工事やアクセス動線の整備を行っていくとのことであるが、道路の整備状況が観光状況に影響を与えることは明白になっているため、いつまでに整備するだけでなく、その間に車をどのように通行させるか等も含めて、早めに情報提供していただきたい。</p>	<p>①実際に渋滞が生じていることは把握しており、改善に向けてできる限り対応してまいります。</p>
30	道の駅来場者数	1,050,000人/年	988,745人/年	○	○	B	<p>①二子団地もできてきており、周辺が活性化していくため、上品の郷等でイベントの開催は予定されているのか。</p> <p>②二子復興団地完成記念イベント等、仕掛けたりしないのか？なお、河北地区の中心である「飯野川町」の活性化が疎かになっていると感じる。商工・観光予算は旧町地区に無いのか？</p> <p>③日本の中でも評価の高い「道の駅」ですら、来場者の減に苦しむ。このことを念頭に他事業も対策すべきではないか。</p>	<p>①現時点では開催の予定は無いが、今後400世帯が増加することが見込まれるため、上品の郷に対して働きかけを行ってまいります。</p> <p>②二子復興団地の街開きイベントに合わせて企画する予定。飯野川商店街については例年、ショッピングパークと街路灯の維持管理、主導する「石巻かほく商工会」に補助金を交付している。また、商店街再生加速化支援事業において平成27年度から平成29年度まで街路灯の新設等に県と市から補助金が交付されており、観光予算からもかほく夏祭りやかほく産業祭りに補助金を交付している。</p> <p>③市内観光施設や地域内コンテンツ等と道の駅を組み合わせた周遊コースを設定し、来客対策の強化を図るとともに、市や関係団体と連携し、HPやFacebookなどによるイベント情報を発信してまいります。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応
			実績評価	改善点工夫点	総合評価		
31	外国人観光客宿泊者数	1,290人/年 1,497人/年	◎	○	A	①インバウンド対応の無料SIMカードについて教えてほしい。 ②今後、インバウンドは国を挙げての施策になるので積極的に取り組んでほしい。宿泊者数だけでは読み間違えが出ないか心配。	①元々インバウンド対策として、WIFI整備を想定していたが、WIFIでは整備した区域外へ出てしまうと使えなくなってしまうという課題がありました。海外からの渡航者はWIFIよりSIMの方が主流であるとの話を受け、検討したところ、今回の取り組みとなりました。 ②外国人観光客の利便性確保に向け、多言語案内板の整備や、民間向けの受入研修会の開催など、積極的に取り組んでまいります。また、現状でも、宿泊以外の外国人の来訪者が多数いることは認識しておりますが、街頭調査等による聞き取りは継続実施が困難であることから、宿泊者数を調査対象としております。今後は、外国人観光客の把握にあたり、様々な手法も検討してまいります。
32	オープンデータ活用事例数 (H27年度～H31年度累計)	10例 2例	◎	○	A	①2017年5月9日時点での13000件というのは、アクセス数かそれともダウンロードされて活用された件数か。また、分野としてはどのようなものが多いか。 ②水産業や産業の情報についてはどうか。	①ダウンロードされた件数となります。分野としては多い物は避難所情報や、人口統計情報が多くあります。 ②平成29年7月11日現在の情報ではありますが、魚種別水揚げ数に関するダウンロードについては127件となっております。
33	石巻テレワーク登録者数	100人 97名	○	○	B	①評価するには情報が足りない。登録者数の内、どの程度の人がどの位の収入を得、継続しているのか？評価指数にするのはいかなものか？	①登録者数97名のうち、平成28年度末時点で就労実績があるのは48名となっております。毎月の就労者の平均収入は2万円前後となっておりますが、スキルに応じて収入が増となる就労体系でありますので、登録者は、スキルアップ中の方とスキルアップをしながら就労を行っている方がおり、7月時点では登録者全員が継続しております。また、本事業は、平成27年度末に開始したものでありますことから、まずは、より多くの市民に事業を知っていただき、ご登録いただくことを目標としているため、登録者数を評価指数に設定しております。

基本目標3 絆と協働の共鳴社会をつくる

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
34	コミュニティづくり支援補助金申請件数(復興公営住宅分) (H27年度～H31年度累計)	30件	5件	○	○	B	<p>①今泉復興住宅があるので平成27年度に一度使った。申請や実績報告が煩わしかった。そのような声は無いか？また、県の100万円補助とダブるので、今度は県のを試してみたいと思っている。</p> <p>②既存の住民自治組織と復興公営住宅入居者の交流を目的としているが、単に補助金を出すだけで良いものか。</p>	<p>①申請や実績報告の書類作成が煩わしいという声はありますが、公金を補助金として交付するため最低限の書類を提出していただいております。また、書類作成について相談に来られた場合は申請書類や実績報告書類の作成等の支援を行っております。</p> <p>②住民自治組織と復興住宅入居者のコミュニティ形成策としては、当該補助金のほか、復興住宅入居予定者を対象に事前説明会を開催していますが、その際、町内会長等の出席をお願いし、地域の様子をお話しいただいたり、入居して間もない時期には、復興住宅入居者と住民自治組織との橋渡しとなる役員同士の顔合わせ会を実施するなど、コミュニティ形成支援に努めています。</p>
35	地域包括ケアサポート拠点設置件数	4か所	—	○	○	B	<p>①社会福祉協議会では地域コーディネーターなどを設置しているが、雄勝地区などでは、何か活動をしたいがどうすればいいのかわからないといった人がいるので、そうした人をうまく活用してほしい。</p> <p>②震災後、河南地区には新たに移転してきた人が多いが、何かをやりたい人が別々に活動している印象を受ける。地域全体で活動できるような場所の確保は難しいと思うが、市ではどのように考えるか。</p> <p>③高齢化の問題もあるがNPOも相当力を入れて取り組んでいる。行政が何でも背負うより、民間の団体をうまく活用し、補助や委託をするのもいいのではないか。団体活動も活発であり、地域全体で見ればこのような低い評価をしなくてもよいのではないか。</p> <p>④河北地区への拠点は考えていないか？</p> <p>⑤実態が見えないので評価しづらい。</p>	<p>①社会福祉協議会が震災後に地域福祉コーディネーターを設置し、旧市内6地区と総合支所単位の市内12地区に設置している地域包括支援センターの担当エリアを基本とした市内13地区に16名の社会福祉協議会の職員を配置しており、主にお茶飲み会やサロン活動の取組を支援しております。その他にも雄勝地区では男性を対象とした介護教室を実施するなど、活発に活動しております。</p> <p>②河南地区の活動場所等については、この度、国が高齢者、子ども、障害者も地域で共生していく地域共生社会という考えに基づき、住民の活動場所について行政が積極的に提供していけるよう法改正され、来年4月に施行されることになっております。このような取組を総合支所や社会福祉協議会と一緒に進めてまいります。サロン活動は平成26年度には市内全域で70か所程度でありましたが、平成28年度には250か所程度まで増えております。住民活動も増えており、活動できる場の提供が必要と考えております。</p> <p>③サロンも含め、各コミュニティについては、NPO、社会福祉協議会や民生委員、町内会長等の御尽力により活動が増えてきている状況にあります。ハード面の復興事業については、少しゴールが見えてまいりましたので、ソフトに力を入れ、民間の活動を行政が後ろから支える形で支援してまいります。</p> <p>④⑤市内全域における地域包括ケアの推進については、現行の地域包括支援センターが設置されている旧町6地区と旧市6地区の12地区を各エリアとして、均衡を保って普及することとしております。しかし、震災の影響により人口流動が著しい雄勝・北上・牡鹿地区の沿岸被災地や、大規模な集団移転先である蛇田・渡波・河北地区においては、再建後の地域コミュニティの構築が重要であり、サポートが必要であると認識しております。そのため、現在、4か所設置としている当該サポート拠点については、震災の影響による今後の人口流動に応じた定着人口を積算し、再建の状況とその地域課題の状況を踏まえたサポートエリアを設定後、具体的な設置場所を決定する方向で検討してまいります。</p>
36	市内12地域包括支援センターにおける多職種連携会議の定着率	100%	—	○	○	B	<p>①多職種連携とはいえないのではないのだろうか？ケア会議そのものに、民生委員や民間、NPO等も入り行うべきではないのか？会議をすることが目的になっていないか？</p>	<p>①医療機関や介護事業所の専門職種だけでなく、民生委員等の地域住民やNPO、ボランティア団体等地域で活動している関係者も交えて、地域課題についての検討をしていくこととしております。</p>
37	地域包括ケア研修会延参加者数	1,000人/年	670人/年	○	○	B	<p>①研修会にはどういった職種が参加しているのか。</p> <p>②医師でもいろんな種類がある。NPOなども多職種に含まれると考えるのがいいか。</p> <p>③連携会議やまちづくり委員会で講義いただき感謝。情報不足なので市内全域にPRいただきたい。</p> <p>④取り組みは今後も継続していくべきことと思う。参加者数を増やすのは、本当に難しい事だと思いますが、長く続けて欲しいです。(意見のみ)</p>	<p>①医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャーなど、医療・介護分野の多様な職種が参加しております。異なる職種が相互に講師となり、相互の理解を深めるためのワーキングができるような研修を考えてまいります。</p> <p>②医療と介護の分野で話をしましたが、地域コミュニティ分野での多職種もあります。地域包括支援センターのケアマネジャーや地域福祉コーディネーター、民生委員、NPOなど、一つの課題をいろんな視点で考えることができる、相互理解が図られる研修を考えてまいります。</p> <p>③市報等を活用し、広く周知を図っていくこととしております。また、各種団体やサロン等を主催している関係課にも周知し、あらゆる機会を通じ、普及啓発の場を設けていくこととしております。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)		H28実績		委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応
	実績評価	改善点 工夫点	実績評価	改善点 工夫点	総合評価				
38	石巻市シルバー人材センターの年間延べ就業人員	45,600人	43,513人	○	○	B	①一人当たりの平均賃金はいくらか。 ②年金受給の兼ね合いからあまり働けないといった事情はあるのか。 ③地域格差があるのでは？例えば雄勝、北上にもシルバー人材登録者はいるのか？登録者数の内、実際仕事している率は？	①受注金額全体で2億7,000万円、延べ人数4万3,000人、それにシルバー人材センターの運営費が引かれて会員へ支払われますが、一日労働・短時間労働の会員や労働日数の多い会員・少ない会員がいるため、平均的な賃金の算出は単純にはできません。(参考：1日1人あたり5,000円弱が支払われています。) ②正確な賃金は把握していないが、年金に影響するほどの収入はありません。シルバー人材センターの目的の一つは生きがいつくりであり、就業というよりは健康年齢の延伸と考えております。 ③合併前旧市町村別の会員数内訳は、旧石巻市305人、旧河北町50人、旧雄勝町1人、旧河南町60人、旧桃生町4人、旧北上町1人、旧牡鹿町2人となっております。また、合併前の旧町(旧河南町を除く)では、シルバー人材センターがなかったことから、認知度が低い地域があり、会員登録に差が出ております。当該地域については、平成28年度から地域説明会を実施し、丁寧な事業内容等の説明を行っております。就業率は平成29年3月31日現在で98.6%となっております。	
39	住民主体による訪問型・通所型サービスの実施団体数	13団体	1団体	×	○	C	①河北の包括センターの反応は？河北地域の現状を聞きたい。 ②本当に住民全体でこの取り組みを拡大していくのであれば、週1回以上実施という要件はきびしくはないだろうか？	①河北地区での通所型サービス事業の実施団体はありませんが、住民主体によるサロン数(一般介護予防活動支援事業分)は、平成28年度実績で5団体となります。 ②実施回数週1回については、一般的に介護予防として効果を上げるために必要とされている回数となっております。本事業はケアプランに基づき、厚生労働省の基準に従って実施するため、専門性の高い知識が必要であり、サロン活動団体等への人材育成を行いながら、要支援者も含めた事業につながるよう支援してまいります。	
40	都市公園愛護会結成数	80団体	74団体	○	○	B	①町内会そのものの機能が低下している中、今後も増加につなげるには、もっと住民と対話して解決策を一緒に検討すべきではないか？シルバー人材を活用できないのか？	①愛護会を解散した地区について、地元から意見を聞き、新たに愛護会が結成できるよう努めてまいります。 愛護会制度は地元団体が中心となり結成されるものであり、公園の維持管理を通して地域のコミュニケーションを図ることも目的としています。 公園愛護会としてのシルバー人材センターの活用は、通常の維持管理委託業務となり、コスト面からも活用はできません。	
41	旧石巻ハリストス正教会教会堂来館者数	5,000人/年	—	×	×	D	①実際にキリスト教徒の方々に利用してもらった方がよいのでは？建築物として重要なものであるのはわかるが、多くの人に活用されるほうがよいと思う。	①旧石巻ハリストス教会教会堂は、昭和55年に市に寄付され、石巻市有形文化財に指定しており、それ以降は公共建物のため、宗教施設としての活用はしていません。再建した後は、震災前と同様に写真撮影等イベントでの活用も含め、多くの方々に活用していただけるような方法を検討します。	
42	陶芸丸寿かんけい丸利用者数	10,000人/年	—	×	×	D	①今日見てきたがリボンアートフェスティバルのためか閉まっていた。現在順調か？現在の入場者数は？関連して、リボンアートフェスティバルはなぜ危険な沿岸部で行い、内陸に呼ばないのか？ ②賑わい再生を図るには、とてもキーとなる建物であると思う。大変魅力のある施設だと思ふ。もう少し活用に工夫が欲しい。タイルを利用した歴史的な建物です。このタイルの外観にちなんだストーリーある利用法を建築や設計、タイルメーカーなどと一緒に考えてはどうか？	①4月2日に開館し、開館イベントとして5月7日まで「浅井元義展」を開催しており、入場者数は2,439人(1日平均78.6人)となりました。その後はリボンアートフェスティバルの準備等のため閉館しておりましたが、現在はリボンアートフェスティバルの会場として9月10日まで使用しております。今後は11月3日に再開館し、街中の活性化とともに市のランドマークでもある特徴的な建物であることから、石巻の歴史等に親しんでいただきたいと思いますと考えております。 ②11月3日の再開館に向けて、タイルや陶器など旧観慶丸商店の歴史に関連した展示についても今後検討してまいります。	

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績		委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応
		実績評価	改善点工夫点	総合評価				
43	移住コンシェルジュを活用した本市への移住人数	5人/年	3人/年	×	○	C	<p>①多額の経費がかかっているが、これを活用しての実績について詳しく伺う。</p> <p>②この事業を通しての実績を追うことはできるが、ボランティアがそのまま移住するようなケースは実績をつかめないと思うがその点についてはどう考えるか。</p> <p>③3人の実績あるが、追跡調査、住んでみての感想などをフォローアップ調査しているのか。また、コンシェルジュの方が石巻の魅力などをどれくらい知っているのか。その水準を上げていく取組などがあれば教えてほしい。</p> <p>④2、3年で帰ってしまうような方もいると思うが、そうした方へのフォローアップはしているのか。</p> <p>⑤「交流型や体験型のツアー」とあるが、現在、企画できているか？</p> <p>⑥移住コンシェルジュはどの程度石巻を知っている人なのか？あまりに雑な事業だと思う。</p>	<p>①移住コンシェルジュは、</p> <p>1 移住に関する相談・助言などを行う移住情報の提供</p> <p>2 空き物件・仕事・生活に関する情報などの移住情報の提供</p> <p>3 移住PR活動</p> <p>4 中長期滞在者の定住促進などの移住定住窓口</p> <p>5 地域との交流や移住者向けのイベント企画</p> <p>6 地域活躍支援事業や地域交流・定着支援事業参加希望者の募集受付・開催受付などの人材育成活動</p> <p>等の活動を行っており、3名が本市に移住しております。</p> <p>内訳：30代男性（東京都、Uターン者）1名、20代女性（京都府）1名、40代女性（東京都）1名</p> <p>②移住する動機は様々ではありますが、移住コンシェルジュを設置したことにより、移住希望者や少しでも興味を持たれた方へ円滑な情報提供が可能となっております。また、移住者へのフォローアップについては、移住して間もない方や中期滞在者を対象に、地元住民や本市の起業家、長期滞在者との交流の機会を提供し、本市から早期に離れることを抑制し、移住・定住希望者活躍支援事業と連携を図りながら、移住の初期段階から定住に移行する支援を行っております。</p> <p>③移住コンシェルジュは、石巻市出身者を2名採用しております。また、コンシェルジュの水準を上げるとりくみとして、ローカルベンチャー協議会の共通事業で、先進事例から学び、コーディネーター戦略等の知識を習得しております。</p> <p>④フォローアップについては、移住コンシェルジュを通じて、定期的に石巻市の情報発信を行うようにしております。</p> <p>⑤平成29年度に「交流型や体験型のツアー」を4回実施する予定であります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目：6月3日～5日実施（移住希望者6名参加） ※石巻と出会う「石巻お楽しみツアー」 ・第2回目：9月予定 ※取材合宿「世界で一番面白い街をつくろう！ツアー」 ・第3回目：11月予定 ※「仕事と起業のカンファレンス！ツアー」 ・第4回目：2月予定 ※「石巻おためし就業」 <p>⑥移住コンシェルジュは、現在2名体制であり、Uターン者であります。移住希望者や移住者の相談等に対応するため、当課や関係機関と連携をはかり、情報発信や知識の習得に日々努力している状況であります。</p>
44	移住コンシェルジュへの相談件数	20件/年	26件/年	○	○	B	<p>①河北地区にも空き家が年々増えている。河北を希望される話は出ていないのか？差し支えなければ相談内容を聞きたい。</p> <p>②移住コンシェルジュはどの程度石巻を知っている人なのか？あまりに雑な事業だと思う。</p> <p>子育て情報等の相談など石巻の暮らしに関する情報を多角的に連携すると良いと思いました。</p>	<p>①移住希望者からの主な相談は、仕事や住まいのことでありますが、石巻でやりたい事や目的を持った方の相談が多い状況にあります。</p> <p>②現在、子育て情報をはじめ暮らしに関する情報については、移住コンシェルジュに共有しております。今後、コンシェルジュと関係団体等との連携を図りながら、移住希望者からの多様な相談に対応してまいります。</p>
45	全国移住ナビローカルホームページ閲覧数	1,000件/月	337件/月	○	○	B	<p>①ホームページの閲覧数が指標になる事業など聞いたことがない。目的はなにか？</p>	<p>①興味のあるものの情報収集は、身近な携帯端末で、インターネット検索することが効果的であり、移住者のニーズを掴むためには検索数は重要であります。</p> <p>なお、露出を高めるためには、多くの方に興味を抱いていただくようホームページの充実を図ることをしております。</p>
46	教育旅行受入件数（H27年度～H31年度累計）	100件	91件	◎	○	A	<p>①各地域の復興まちづくり情報交流館ももっとこの事業に活用できるのでは？</p> <p>②教育旅行メニューの拡大には、もっとプロフェッショナルな人材が必要ではないか？</p>	<p>①教育旅行誘致を目的に作成した、「アクティブラーニングプログラム」には、中央館を掲載しており、今後の受入対応には他の交流館も紹介し活用してまいります。</p> <p>②教育旅行メニューの開発には、平成28年度に実施した教育機関アンケートの調査結果に基づき、DMOと連携して教育関係者や旅行エージェントを対象としたモニターツアーを開催し、現場の意見を取り入れたメニュー開発を進めてまいります。</p>
47	石巻専修大学との助成対象事業件数	7件/年	9件/年	◎	○	A	意見なし	—

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
48	市立高校の生徒が本市に住み続けたいと思う割合	70%	65.2%	○	○	B	<p>①学校では工夫した活動をしており、地元に残ってもらえる教育もしている。市立高校なのでこのような実績が出たと思うが、定員に満たないのが心配である。進路が決まらないまま卒業したという声も聞いているがいかがか。</p> <p>②「市立高校の生徒が本市に住み続けたい割合」について、調査対象が桜坂高校のみになっており、それを石巻市の高校生の総意と捉えていることの正確性を伺う。また、桜坂高校は市内高校生の何%を占めているのか。何を旨とした学校で、それを含めて評価しているのか。</p> <p>③石巻市内全体の高校生の意識はどういう形で把握しようとしているのか。</p> <p>④「住み続けたいと思う」事と、住み続けるかは別データであるはず。実態をふまえ、プログラムもつくるべき。ここで住み続ける為に経済的な可能性を含めて教育するべき。</p>	<p>①現在、桜プロジェクトを実施しており、7月19日～20日には2学年全員による地元企業での体験学習を実施しております。今後もこうした取組を生かし、地域の産業等にも理解を深めていきます。なお、定員割れは全市的な問題ではありますが、桜坂高校については平成27年度と比較すると受験者は少し増えております。魅力が少しずつ広まった結果と理解しております。</p> <p>②市立高校を対象とした評価であり、市内の高校生全体の評価ではありません。県立高校での実施は難しい状況であることを御理解願います。桜坂高校の良さのアピールについては今後も努力してまいります。連携という点では他の県立高校と取り組んでおります。</p> <p>③この件については市全体の課題でもあり、復興政策課でアンケート調査を行い、現在集計作業中です。今後もアンケートは毎年実施してまいります。調査結果に基づき、教育部門だけではなく、市全体としてどのような政策が必要なのかを全庁的に検討してまいります。</p> <p>④桜坂高校は開校3年目であり、地域に貢献する人材育成を目的としたプロジェクトである桜坂タイムの取り組みについても3年目であることから、現時点では住み続けたいと思う割合を指標としております。なお、来春の3年間桜坂高校で学んだ生徒の進路状況をみて指標等についてはさらに検討を加えます。</p>

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	委員質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点工夫点	総合評価			
49	市外避難者の帰郷人数 (H27～H31累計)	1,260人	—	×	×	D	<p>①市外避難者を把握しきれない状況の中で、どのようにして復興住宅の戸数が決定されているのか。</p> <p>②データが取れたので、KPIの見直しも必要になるかと思うがいかがか。</p> <p>③調査した段階で帰京するかどうかが明確となっているのではないかと。これをKPIにするのは違うような気がする。</p> <p>④なぜ帰郷しないのか？その原因を分析して欲しい。もう支援が必要な時期は過ぎているのでは？</p>	<p>①特定延長の対象者、一律延長から8年目の延長については、特定の事由に該当する方のみが対象となるため調査を行っております。その調査結果を復興住宅課に提供し、戸数決定の参考にしてもらうという方法で国と調整しております。昨年度も自立計画届出書で住まいの再建方法を昨年も調査しており、そうした調査を踏まえて戸数を復興住宅課で検討しております。市外避難者の把握について、全国避難者情報システムの情報は、避難者自らが登録した内容であり、それらの方は新たな住まいを必要としないケースも多くあります。被災していないにもかかわらず市外に避難している方も多くあります。住まいを失って避難された方は、他県の市営住宅や、民間賃貸住宅をはみなし仮設扱いとして利用しており、家賃は公費負担されております。そうした情報は宮城県から定期的に提供を受けております。そうしたことから、復興住宅の件数には大きく影響しません。</p> <p>②見直しについては、再建方法により支援も異なり、様々な支援策はしているが、今後更なる支援を検討している。目標の見直しも必要と考えております。</p> <p>③今後は、KPIの指標の見直し等について検討してまいりたい。理由といたしましては、市外・県外避難者が石巻市に帰郷するか否かは、本市等が行っている情報提供や交流、住宅再建補助ではなく、ご家族の就労や就学の状況、土地区画整理、災害公営住宅その他の住まい関連事業の状況などが重要である上、避難した方々の生活設計に関連する本市のあらゆる施策が関係してきます。従って、帰郷者を増やすためには市の復興関連事業、雇用施策、教育環境等々、あるゆるまちづくり施策が帰郷の判断材料になり得るものと考えております。また、ご指摘のように、避難者の殆どが、主に就労や就学の面で、或いはコミュニティの面で、今、住んでいる地域に定着していることが想像され、既に帰郷するか否かが明確になっているものと思われま。ご指摘も踏まえ、総合戦略の次回改訂に向け、見直しについて、引き続き検討してまいります。</p> <p>④石巻市で被災し県外に避難した方に対して、宮城県が実施したアンケートでは、以下の結果が出ております。帰郷しない理由を直接分析している項目ではありませんが、回答世帯数が237世帯であるのに対し、帰郷に関する設問(5、6)への回答数が少なくなっています。その他、参考までに下記に同アンケートの一部をご紹介します。</p> <p>4「今後の生活予定」では、震災前の居住地に戻るかどうか「決まっていない」世帯が、回答者150世帯のうち、40%と最も多くなっております。</p> <p>5「帰郷時期」では、「未定」の世帯が35.2%と最も多くなっております。</p> <p>6「帰郷後の住居」では、「災害公営住宅」が48.1%と最も多くなっております。</p> <p>7「帰郷時期を決められない理由」では、「地元の災害公営住宅の用途が不明」37.7%が多く、「家の再建用途が不明」35.1%が続いており、住まい再建の見通しが関連しているほか、次いで「地元の仕事が見つからない」24.7%、「家族が避難先で就職している」18.2%と、就職先が関連していることが分かります。</p> <p>「帰郷しない理由」としては、前述したように、仕事や通学など、現に避難先での生活が定着していることと、住まいの再建の見通しが不明であることと考えておりますが、今後、本件に関し、本格的な分析をした場合の活用策を含めて検討したいと存じます。</p> <p>震災から6年を経過した今、既に多くの避難者が帰郷か否かの判断をしているものと捉えており、総合戦略の次回改訂に向け、見直しについて引き続き検討してまいります。</p>
50	ふるさと納税の寄附件数	30,000件/年	11,830件/年	○	○	B	<p>①還元率は、当市と全国の比較は？あと人気の商品は何か？あまりにも下落しているの、ほかの地域に負けないよう、抜本的な対策が必要である。</p> <p>②事業費実績の金額は、寄附金額と比例する流動費なのか？それとも寄附はなくてもかかる固定費なのか？</p>	<p>①本市の還元率は、寄附金額に対して約3割であります。全国的には、昨年度まで5割以上の還元率のところも多数ありましたが、本年4月に総務省からの指導により、還元率が3割に是正されております。人気の特産品は、たらこ、米、かまぼこ等となっております。</p> <p>また、昨年度、ふるさと納税を始めた自治体数が増加したことにより、複数のポータルサイトの活用やPRを積極的に行いふるさと納税の増収に努めてまいります。</p> <p>②本市のふるさと納税の使用用途は、総合計画の基本目標としており、総合計画掲載事業に寄附金を充当しております。</p>
51	定住自立圏共生ビジョンの策定進捗率	100%	—	×	×	D	<p>①結局何をやる事業なのか、全くわからない。</p> <p>②これまでの流れから、今年度の50%という目標は無理があるのではないかと。</p>	<p>①定住自立圏は、近隣市町が互いに連携し、仕事や住居、買物など、生活に必要なものが完結(充足)されるようなエリアを形成することで、仙台や東京圏への人口流出を防ぐことにもつながるものとなっております。例えば、図書館の相互利用や病院の共同運営(負担金)等です。</p> <p>②2市1町との協議で、復旧・復興事業の進捗状況を踏まえて再開することとしております。一方、この策定に関わらず、個別事業毎に連携が進んでいるところもあることから、今後も再開の機運を高めていくような施策展開を図ってまいります。</p>

基本目標4 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応	
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価			
52	石巻市女性人材リスト登録者数 (H31年度末)	170人	145人	○	○	B	①No.52～54の男女共同参画事業について、スキルアップ事業は夜に実施することが多いので小さな子どもがいると参加しにくいという声がある。そのための託児サービスなどは無いのか。 ②登録者数は指標にはならない。登録者数の内、女性委員への登用率を示すべき。	①託児サービスを希望する声は伺っております。現在、取り組み予定はありませんが、今後検討してまいります。 ②女性人材リストの登録者数は、審議会等への登用ばかりでなく女性の人材育成も目標としておりますことから、人材リストからの登用率だけでは測れないため登録者数としております。
53	「育児や家事の役割」について「夫婦同様」との回答割合 (H31年度末)	70%以上	60%	○	○	B	①子育てパパを雇用する企業側からの理解と協力をもっと活発に工夫する点は早く進めて欲しい。 ②今、若いお母さんたちが自分の子どもを見ながら託児を手伝ってくれています。若いお母さんとおばあちゃん世代と一緒に活動できて両方にいい刺激となっております。(意見のみ)	①平成29年度には、市内の企業等にも呼びかけ、「イクメン講習会」や「イクボス研修」などの開催・参加をお願いしながら、男性にも子育て参加の意識を醸成してもらい、また企業にも啓発を図ってまいります。
54	女性のチカラを活かす企業認定数	30社	22社	○	○	B	①そもそもKPIの目標30件がどうなのか？市内にある企業数の率、企業人定数100%を目指すべきではないのか？	①目標値については、市内における事業者数が6,000件強となっております。その中で30人以上の従業員がいる事業所は374件となっておりますことから、小規模事業所を除いたこの件数の10%程度が妥当と考えております。
55	心とからだのトータルケア参加者数	500人/年	617人/年	◎	◎	A	意見なし	—
56	親子教室・遊びの広場の参加親子数	20,000組/年	19,376組/年	◎	◎	A	意見なし	—
57	保育施設待機児童数	0人	78人	○	○	B	①潜在保育士の掘り起し策では、直接本人に打診する以外に、アプローチの方法などがあれば教えてほしい。 ②保育所が2か所新設、小規模施設も2か所、それでも待機児童が増えている。少子化でありながら、働く母親が増えている。保育所を4つ増やしたのに待機児童が78人に増えている。これは、少し本気で見直さなければならない。保育所には定員が定められているが、それは保育士の人員の問題なのか、それともキャパシティの問題なのか。OBの受入れなどを人員確保に使えないのか。 ③短時間労働も可とするなど、保育所や放課後児童クラブも短時間の働き方をもう少しアピールしてはどうか。 ④目標を0人としておきながら、78人という大きな数字である。子育て環境が悪いと子供が増えないことは周知の事実であり、環境改善に全力で取り組んでいただきたい。 ⑤これはとても難しい課題だと思います。市民をまきこんで、保育士確保に向けた施策を一緒に考えてもらった方がよいのでは？ ⑥待機児童は潜在数も含めると多くいるが、一方でできるだけ早く保育所に入れないと、入れなくなるとあせって0歳～の入所を考える方とても多いので、今後の見込みなど出してもらえると少しペースがおちつくのでは？と思います。	①保育士不足は全国的な問題であり、身近にも資格を持っている方がおりますが、違う職業に就く方が多くなっております。違った角度からのアプローチについては、難しいですが検討してまいります。 ②施設が増えているにもかかわらず待機児童が増えていることについて、市では平成27年度以降、利用定員を約500人増やしたが、申込者数もそれに合わせて約500人増えており、施設を増やしても申込みが増える傾向にあります。国の制度で株式会社の民間保育所の設置が補助対象となったこともあり、今年度は3保育所を更に増やす計画をしております。待機児童のうち、0、1、2歳が60%以上を占めており、低年齢児ほど職員の配置が必要であるため、それも保育士不足につながっております。施設の大きさについて、児童一人当たりの面積が決まっているが、基準の範囲内であれば定員を超えて受入可能としております。放課後児童クラブ指導員の教員OBの活用については、子育てを終えた方がなり手となるケースが多いが、退職された先生にもぜひ指導員としてやっていただきたいという思いはあります。多方面に声をかけてはいますが、なかなか難しい状況にあります。 ③フルタイムだけでなく、パートも採用しております。民間保育所でもパートはたくさん採用している状況です。 ④待機児童数ゼロを目指すため、今年度、民間による保育施設整備を3箇所予定しており、施設整備による待機児童の解消を図ってまいります。 ⑤保育士確保対策については、保育士養成機関への働きかけを強化し、また、潜在保育士については、新たな施策の実施を含め検討し、対応してまいります。 ⑥0歳児から2歳児の待機児童が多くなっているため、施設整備による待機児童解消を図ってまいります。

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応																									
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価																											
58	放課後児童クラブ待機児童数	0人	51人	○	○	B	<p>①利用者の増加で待機児童数が増えている。利用している親の立場としては大変助かっているが、ただ受入れを拡大するだけでなく、子どもが育つ場として環境の配慮や指導員のスキルアップなどを考えながら進めてほしい。</p> <p>②指導員の確保が課題とあるが、市報やハローワークは活用しているのか。</p> <p>③指導員の資格や研修は制度上必要あるのか。</p> <p>④放課後児童クラブは今後も長期的に需要が見込まれる。一方、教員採用試験は倍率が高く採用が難しいので、それらの受け皿となり得るような待遇を市で用意すればいい人材集まるのではないのか。</p> <p>⑤短時間労働も可とするなど、保育所や放課後児童クラブも短時間の働き方をもう少しアピールしてはどうか。</p> <p>⑥定年を迎える先生は決まっている。質問には1年前、半年前からアピールしてはどうか。</p> <p>⑦目標を0人としておきながら、52人という大きな数字である。子育て環境が悪いと子供が増えないことは周知の事実であり、環境改善に全力で取り組んでいただきたい。</p> <p>⑧これはとても難しい課題だと思います。市民をまきこんで、保育士確保に向けた施策と一緒に考えてもらった方がよいのでは？</p> <p>⑨子どもたちの環境（狭いスペース、外遊びできない、学校の余裕教室で、「学校のイメージが強い」など改善できると。指導員も大変なので、指導員同士情報交換や研修などできる人員配置になるといいと思います。</p> <p>⑩住宅再建等で人が移動していると思われるが、施設の場所などにミスマッチがあったりしていないのか？</p>	<p>①放課後児童クラブは、平成27年度の新制度移行後、平成28年度は1,860人、平成29年度は2,024名と受入人数を大幅に増やし、それに対応した施設整備を行っておりますが、余裕教室を利用したクラブなどでは、室内の遊びだけでは満足できない子どももおり、外遊びなど指導員が様々な工夫しているところもあります。限られた環境の中ではありますが様々な取組を考えてまいります。</p> <p>②活用しております。</p> <p>③これまでは資格は必要ありませんでしたが、研修を受ける必要はあります。また、法改正により、放課後児童支援員の配置人数の基準が定められました。</p> <p>④児童クラブの指導員の確保は重要な課題なので、あらゆる対応を検討してまいります。</p> <p>⑤放課後児童クラブは午後1時から6時までの5時間勤務だが、なかなか集まらないのが現状であります。</p> <p>⑥再任用を希望する教員が大幅に増えているのが現状であります。特別支援員など、退職予定者の3分の2くらいは教員としての再任用を希望しています。</p> <p>⑦待機児童の数はゼロを目指しておりますが、放課後児童クラブの専用教室を設置する計画もあり、地域ごとの需要を把握した上で、余裕教室の活用や、専用教室の設置を含めて、待機児童の解消を図ってまいります。</p> <p>⑧ハローワークや地方紙を有効活用し、また、関係者等の声がけなどをさらに強化し、指導員確保を図ってまいります。</p> <p>⑨限られたスペースでの実施している児童クラブもあるため、創意工夫しながら、環境改善を図ってまいります。指導員の研修については、定期的実施しております。</p> <p>⑩旧市内の蛇田地区や渡波地区については、待機児童が発生しており、住民の動態等も把握しながら、専用教室の新設等により待機児童解消を図ってまいります。</p>																								
59	授業が分かったと感じている児童生徒の割合	85%	89.9%	○	○	B	<p>①教科別のグラフなどがあると良い。</p> <p>②全国学力調査のデータも踏まえるべきでは？</p> <p>③中学校2年生の割合について特に重点的な取り組みが必要だと感じます。</p>	<p>①国語、算数・数学の授業内容はよく分かるか。（平成28年度調査） 「当てはまる」と回答した割合</p> <table border="1"> <caption>国語</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>小6</th> <th>中3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石巻市</td> <td>34.7</td> <td>31.5</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>35.3</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>36.3</td> <td>26.2</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>算数・数学</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>小6</th> <th>中3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石巻市</td> <td>42.8</td> <td>26.7</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>46</td> <td>29.4</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>46.7</td> <td>31.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>②「教育施策アンケート」では、教科別の理解度を問うておりません。平成29年度分のアンケート実施に向けて、検討したいと思っております。代案として、「全国学力調査のデータも踏まえるべきでは？」との質問より、国語、算数・数学の2教科について、グラフを示します。</p> <p>③小学生に比べ中学生はメタ認知能力が発達し、自己をより客観視できるようになるので、全ての教科が分からないと、「分かる」と回答しない傾向にあることも一因ではないかと考えます。小学生に比べ、中学生の理解度が著しく落ちているとは考えにくいと考えられます。ただし、数値的には確かに低いため、子どもの未来づくり事業における取組を一層推進する中で、生徒が「分かる」と感じる授業づくりに取り組んでまいります。</p>	地域	小6	中3	石巻市	34.7	31.5	宮城県	35.3	26	全国	36.3	26.2	地域	小6	中3	石巻市	42.8	26.7	宮城県	46	29.4	全国	46.7	31.7
地域	小6	中3																														
石巻市	34.7	31.5																														
宮城県	35.3	26																														
全国	36.3	26.2																														
地域	小6	中3																														
石巻市	42.8	26.7																														
宮城県	46	29.4																														
全国	46.7	31.7																														

重要業績評価指標(KPI)毎の委員評価等一覧

No.	重要業績評価指標 (KPI)	H28実績	委員評価			委員質問・指摘事項等	質問・指摘事項に対する回答・対応												
			実績評価	改善点 工夫点	総合評価														
60	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	85%	78%	○	○	B	<p>①これは学校が楽しいと感じている児童生徒の割合だが、不登校の割合はどのように推移しているのか。</p> <p>②このアンケート結果がなぜ児童生徒の将来に対して夢や希望を持って生活できるようにするための支援施策につながるのか。</p> <p>①小中学校ともにここ2年で不登校の割合は増加しております（小：0.61→0.84、中：3.45→4.99）。原因は現在調査中であり、学校訪問しながら対応を検討しております。</p> <p>②「学校生活が楽しい」ということは、児童生徒が学校の教育活動に適応していると捉えることができます。そうした状況のもと、教師や友達と関わりながら自己を見つめ、その力を伸ばしていくことが、将来に対する夢や希望を抱くことに結び付いていくものと考えます。併せて、上の追加質問の2つ目、「全国学力調査のデータも踏まえるべきでは？」とありますが、児童生徒質問紙調査において、将来の夢や希望について問うている項目がありますので、こちらのデータも参考資料として提示することといたします。</p> <p>将来の夢や希望をもっているか。(平成28年度調査)</p> <table border="1"> <caption>将来の夢や希望をもっているか。(平成28年度調査)</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>小6 (%)</th> <th>中3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石巻市</td> <td>86.7</td> <td>72.5</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>85.6</td> <td>71.2</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>85.3</td> <td>71.1</td> </tr> </tbody> </table>	地域	小6 (%)	中3 (%)	石巻市	86.7	72.5	宮城県	85.6	71.2	全国	85.3	71.1
地域	小6 (%)	中3 (%)																	
石巻市	86.7	72.5																	
宮城県	85.6	71.2																	
全国	85.3	71.1																	
61	スクールカウンセラーの配置率	100%	100%	◎	○	A	<p>①各学校でいろいろ取り組みをしています。教育委員会からは押し付けが多いと思うところもあるようなので少しは見守り報告を待つ方でもよいと思う。</p> <p>①現在スクールカウンセラーは各学校からの希望により配置をしております。児童生徒、保護者、教員の相談の要請に対し、気持ちに寄り添いながら対応できるような体制を今後も整え、必要に応じて助言をしております。特に、平成29年2月に文部科学省から教育相談の充実に関する通知があったように、学校ではこれまで以上に事案の未然防止、早期対応が望まれております。スクールカウンセラーが学校の職員の一員として、このような対応に資する活動の在り方を探ってまいります。</p>												